

# 新刊児童図書リスト

(平成 30 年度版)

平成 31 年 4 月  
広島県立図書館

## 第 30 号



### 📖 リストについて

- ・ このリストに掲載した絵本は、平成 30 年に出版されたものです。また、児童図書は平成 29 年に出版されたものです。
- ・ このリストの各テーマは、本を紹介しやすいように便宜上設けたものです。他のテーマに分類できるものもありますが、御了承ください。
- ・ 【 】の中は、県立図書館の資料分類のための請求記号です。E は絵本、C は知識の絵本を表します。
- ・ このリストで取り上げた本は、全て広島県立図書館で借りることができます。また、お近くの公立図書館を通して借りることもできますので、御利用ください。

## 絵本

### ◆ 日本の絵本

『めんたべよう!』小西英子／さく，福音館書店【E コ】

「きょうはスパゲッティをたべようか?」「ボンゴレ いかすみ ペペロンチーノ」「さあ、どれにする?」スパゲッティやそば，ラーメンなどのおいしそうな麺料理が，食感や香りまで伝わってきそうなほどリアルに描かれています。自分だったらどれが食べたいか，子供とやり取りをしながら楽しめる絵本です。

『まよなかかいぎ』浜田桂子／作，理論社【E ハ】

夜，小学生のゆうきくんがぐっすり眠っていると，ランドセルの中から筆箱やノートが「そろそろ」と出てきました。実は，文房具たちは毎晩，ゆうきくんが学校でどんな様子だったかを報告し合う「会議」を開いていたのです。

『どうぶつどんどん』たしろちさと／文・絵，大日本図書【E ケ】

自分の鼻を使い豪快に水浴びをするゾウ，力強く走り抜けていくシマウマの群れ…。「どんどん」というタイトルのとおり，次々に登場する動物を，躍動感たっぷりに描いています。

『さとやまさん』工藤直子／文，今森光彦／写真，アリス館【E ク】

人間と深い関わりのある里山の様子を40年以上も撮影し続けている今森光彦さん。季節によって姿を変える里山の様子を，厳選された美しい写真で紹介しています。声に出して読みたくなるほどリズムカルな文章からは，里山に対する親しみや愛情が感じられます。

『おにいちゃんさんかんび』くすのきしげのり／作，大島妙子／絵，光村教育図書【E ク】

今日は，幼稚園に通う妹の参観日。急な仕事で行くことができなくなった両親の代わりに，小学生の「ぼく」が行くことになりました。参観日では，みんなで折り紙をします。ぼくは，妹をがっかりさせないように，誰よりも上手に折ろうと頑張りますが…。

『どしゃぶり』おーなり由子／ぶん，はたこうしろう／え，講談社【E オ】

『なつのいちにち』を描いたはたこうしろうさんが，夏の雨をダイナミックに描いています。雨の落ちる音がさまざまなオノマトペで表現され，画面構成にもインパクトがあり，実際に雨の中にいるようです。雨を全身で楽しむ男の子の様子を見ていると，何だか元気になりそうな絵本です。

『もうちょっともうちょっど』きむらゆういち／文，高島純／絵，福音館書店【E キ】

『あらしのよるに』で有名なきむらゆういちさんの作品です。木登りのできないコブタが，リンゴが落ちてくるのを待っています。ついにリンゴが落ちてきましたが，コブタにぶつかって，岩の穴の中に転がって入ってしまいました。コブタは岩の穴の中に手を伸ばしますが…。

## ◆ シリーズもの

### 『へんしんたんてい』あきやまただし／作・絵，金の星社【E ア】

ロダンの彫刻が無くなって困っているたけしじいさん。「へんしんたんてい」のてーたんは「ちよっとしたわざ」を使って、あつという間にロダンの彫刻を見付けます。子供と一緒に謎解きをして楽しめます。

### 『伊賀のキャベ丸（野菜忍列伝 其の6）』川端誠／作，BL出版【E ア】

にんにく，アスパラ，なす，タマネギ，しょうが，と子供には人気のなさそうな野菜たちが活躍する「野菜（忍）列伝シリーズ」の最新作です。キャベ丸が忍法を使うときには，キャベツらしい相棒が登場します。

### 『旅の絵本 9』安野光雅／[著]，福音館書店【E ア】

「旅の絵本シリーズ」の5年ぶりの新作の舞台はスイス。アルプスの美しい山々を眺めながら旅人は進みます。通りすがりの村の人々の暮らしをじっくり見ると，様々な発見があります。

### 『だるまちゃんとかまどんちゃん』、『だるまちゃんとはやたちちゃん』、『だるまちゃんとキジムナちゃん』加古里子／さく・え，福音館書店【E カ】

50年以上もの長い間親しまれてきた「だるまちゃんシリーズ」が3冊同時に刊行されました。巻末の「作者のことば」には，東日本大震災，福島原発事故，アメリカの基地問題に揺れる沖縄への，かこさんの想いが書かれています。

## ◆ 赤ちゃん向け絵本

### 『どんどんばしわたれ』こばやしえみこ／案，ましませつこ／絵，こぐま社【E コ】

「どんどんばしわたれ さあわたれ こんこがでるぞ さあ わたれ」女の子が歩いていると，動物たちが登場し一緒に歩いていきます。「わらべうたえほん」シリーズの5冊目の本です。奥付にはわらべうたの楽譜もあります。

### 『いっしょにするよ』風木一人／さく，たかしまてつを／え，KADOKAWA【E カ】

小鳥たちが，遊んだり，泳いだり，お母さんと一緒に寝たりして過ごしています。おさんぽのときは「とこ とこ」，水浴びのときは「ばしゃ ばしゃ」等擬音がたくさんあり，子供と一緒に口ずさんで楽しめます。

## ◆ 科学絵本

### 『きりみ』長嶋祐成／え・ぶん，河出書房新社【C 6】

「サケのきりみ」や「えびフライ」等，いつも食べているのは生き物のどの部分なのでしょう。ページをめくると，料理に使われた部分分かる解体図が描かれています。また，料理に使われた生き物の水中での様子も解説されています。

『もりのほうせきねんきん』新井文彦／写真・文，ポプラ社【C 4】

「ねんきん（粘菌）」は生き物で，通常はぬるぬる，ねばねばしています。けれども一生の内で形がいろいろ変わり，「変形菌」ともいいます。粘菌が変形して胞子を作る様子や，宝石のように美しい粘菌等，作者の新井文彦さんが撮影した写真で多数紹介されています。

『実物大！世界のどうぶつ絵本』ソフィー・ヘン／作，藤田千枝／訳，あすなろ書房【C 4】

実物大の動物や動物の体の一部を描いた絵本です。「ジャイアントパンダ」や「マメハチドリ」等，大小様々な動物が登場します。終わりには，動物たちの大きさをこの絵本で計ると何冊分になるかが分かるページがあり，子供達が動物の大きさを具体的に想像しやすい工夫が施されています。

## ◆ 昔話・古典

『巨人の花よめ：スウェーデン・サーメのむかしばなし』菱木晃子／文，平澤朋子／絵，BL出版【E 7】

スウェーデンの先住民族サーメ人の昔話を再話したものです。サーメ人のネイネ・パグゲという男には，チャルミという一人娘がいました。ある時，巨人がチャルミをお嫁に寄越せとパグゲに言います。パグゲから相談を受けたチャルミは，巨人にある要求をします。

『12つきのおくりもの：スロバキア民話より』石井睦美／文，メグホソキ／絵，フレーベル館【E 1】

フレーベル館の「ひきだしのなかの名作」シリーズの一冊です。マルーシカという美しい娘が，雪の降る寒い日に継母と姉に「森に行つてすみれをつんでこないと家に入れぬ」と無理難題を言われました。途方に暮れるマルーシカを12の月の精が助けます。

『ながぐつをはいたねこ』シャルル・ペロー／原作，いとうみく／文，竹内通雅／絵，フレーベル館【E 4】

フレーベル館の「ひきだしのなかの名作」シリーズの一冊です。過去にマーシャ・ブラウン等有名な画家が絵本化していますが，この絵本は1ページ当たりの文章が短く，色鮮やかな絵が印象的です。読み聞かせをする子供の年齢に合わせて，どの本がいいか読み比べてみるのもいいかもしれません。

## ◆ 外国の絵本

『またまたねえ，どれがいい？』ジョン・バーニンガム／さく，まつかわまゆみ／やく，評論社【E 4】

究極の選択を迫る『ねえ，どれがいい』（1983年発行）の続編です。

「ラクダのげろ，ゾウのおなら，ウシのうんち，ねえ，どれがいい？」

『ねこはまいにちいそがしい』ジョー・ウィリアムソン／作・絵，いちだいつみ／訳，徳間書店【Eウ】

ねこは、朝から晩まで、飼い主の家族のために尽くしています。飼い主が迷惑そうな顔をして、お構いなしです。マイペースでとぼけた感じのねこと一緒に暮らす家族を、ねこの目線でユーモラスに描いています。

『藤城清治影絵の絵本 アンデルセン』アンデルセン／[原作]，藤城清治／作，講談社【Eア】

雑誌『暮らしの手帖』に1970年代から1990年代にかけて連載していた作品を絵本にしたものです。「小さなもみの木」など5話を、縁取りの黒が印象的な、美しい影絵で格調高く描いています。『藤城清治影絵の絵本 グリム』に続く作品です。

『王さまとよごれた足』サリー・ポム・クレイトン／文，ライアノン・サンダーソン／絵，青山南／訳，光村教育図書【Eク】

昔、あるところに、美しい宮殿に住み、何不自由なく暮らしている王様がいました。そんな王様には、一つだけ大嫌いなことがありました。それは、体を洗うことです。

インドの民話「王さまと靴職人」を基にしたお話です。

『スムート：かたやぶりなかげのおはなし』ミシェル・クエヴァス／文，シドニー・スミス／絵，いわじょうよしひと／訳，BL出版【Eク】

「スムート」は、男の子の「影」です。影なので、ずっと男の子にくっついて一緒に行動をするしかありません。けれども、スムートはタイトルのおおりに、「かたやぶりなかげ」でした。実はスムートは、男の子の行動に不満を持っていて…。

『ぼくにまかせて!』デイヴィッド・ウィーズナー／作，江國香織／タイトル訳，BL出版【Eウ】

草野球の仲間に入れてもらった男の子のところに、高く上がったボールが飛んできました。「ぼくにまかせて!」と気合十分だったのですが…。作者は、3度のコルデコット賞を受賞しています。言葉はほとんどなく、絵だけで、緊張感や達成感など男の子の心理を見事に描いた作品です。

『はっばとはなのせかい』イヴォンヌ・ラセット／著，オークラ出版【Eウ】

かわいらしいひよこや、ブタ、カメなど、いろいろな動物を葉っぱと花だけで描いている文字のない写真絵本です。

『石たちの声がきこえる』マーグリート・ルアーズ／作，ニザール・アリー・バドル／絵，前田君江／訳，ファラーフ・ラヒーム／アラビア語訳，新日本出版社【Eル】

石で描いた作品です。シリアの難民の物語を、少女の視点から描いており、日本語とアラビア語が併記してあります。無機質な石のはずなのに、タイトルのとおりに声が聞こえて、表情豊かに語りかけてくるようです。

## 児童図書

『世界は変形菌でいっぱいだ』増井真那／著，朝日出版社【473.3/117マ】

5歳のときに変形菌の魅力に取りつかれて以来，10年以上も変形菌を育てている自分の日常生活を，高校生である著者が紹介しています。著者は，学会や研究コンテストでも発表してたくさん受賞している研究者でもあり，変形菌への愛にあふれた本です。

『世界を救うパンの缶詰』菅聖子／文，やましたこうへい／絵，ほるぷ出版【588/ス】

パンの缶詰が誕生したのは，災害で食べるものに困っている人たちに「おいしくて，やわらかいパンを食べてほしい」という思いがきっかけでした。備蓄食料としての役割を終えたパンの缶詰を世界の飢餓に苦しむ地域に送る「救缶鳥プロジェクト」にも取り組むパン屋さんの奮闘記。

『大林くんへの手紙』せいのあつこ／著，PHP研究所【913/㇗】

学校に来なくなった大林くんクラス全員で手紙を書くことになりますが，文香は迷いに迷って「いつかちゃんとした手紙を書きます。」と書いて，手紙の内容を考え続けます。周りのクラスメイトが，自分なりに大林くんと向き合おうとしている姿を見ながら，文香は大林くんの気持ちを理解するためにある行動を始めます。